

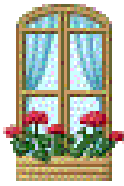
島根の地域医療

第4号

島根県健康福祉部医療対策課 '03. Jun. 03

e-mail: iryou@pref.shimane.jp

▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



◇平成15年度第1回 医師確保部会を開催

医師確保部会は、へき地に所在する公的医療機関等の医師確保要望を把握し、島根医科大学、県立病院、へき地勤務を希望される U・I ターンの医師等の派遣調整を行う機能を担っています。

5月29日に開催した部会では、各病院等から出された来年度の医師確保要望の報告等行いました。

その要望内容は、新たに26名もの医師確保が求められており、全ての要望にお応えするのは、非常に難しい状況です。

へき地で勤務される医師の皆さんの満足度向上が人材確保の上で重要と考え、県も各種施策によりフォロー体制の充実を進めております。へき地医療に興味をお持ちの方は、是非ともご連絡ください。お待ちしております。【医療対策課 小松原】

地域医療最前線その5

緩やかに夏がやって来た。雪が消えても暫くは寒かった峰の山々が青くなり、水田は耕され、水が張られた。こうして苗植えの準備が終わった。5月の連休に田植えが始まり、あちこちの田では機械が動き回り直線を描いて行く。機械植えが人手にとって替わって久しい。運転手がボタンを押すと鉄の手が稲の苗を器用に植えて行く。その手は機械に積んだ苗を受け取り、つかみ、水田に刺し植える、また受け取る、の一連の動作を繰り返す。疲れず、休まず勤勉だ。機械は隅植えが不得意だ。そこを人の手が植えて行く。曲がった腰が静々と植えて行く。植え終わると撒収作業だ。苗箱を曲がった腰が洗い始める。10箱、20箱、100箱と。洗い終わった箱が右から左へと山積みになる。次に箱は車で運ばれて行く。洗い終わった人々は腰を伸ばし、車に箱を積み終わった人は腰を伸ばす。伸ばしても腰の「く」の字は伸

びない。腰をたたく。これで仕事は一段落。田の草取りまでは大仕事はないとひと安堵。泥落としの休みか病院へ行こうか。腰が、膝が痛くてままならない。腰も膝もかがまってしまって伸ばしては歩きにくい。膝が腫れ、畳からは立ちにくい。転ばないようにつかまって立つ。来客あってもすぐには対応できない。返事してからゆっくりと体がついて行く。歩き始めは膝が痛くて足を引きずる。明日は出勤する息子の車で病院へ行こう。病院入り口にある押し車は便利だ。取手につかまって歩くと歩きやすい。待合ホールにはあちこちに顔見知り。膝や腰が痛いご同輩方。混じって情報交換は家族と親戚と近所の出来事。〇〇病院の整形外科が評判いい、頓原病院も良いそうだとよその人。みんなと一緒にうなづく病院評定。お茶を飲みひとしきりお話をする。畳の待合室で横になるのが楽。呼び出しの放送がある。話に夢中で気がつかない。看護婦(師)さんが大きな声で呼ばれる。わたしの番だ。立とうとするが、さて立ちにくい。先生もちょっと待ってや。ゆっくり歩いてゆくでな**これが旧暦4月の頓原町の一情景です。

頓原病院は島根県広島県の県境に近い中国山地にあります。町立病院で48床の一般入院施設を持ちます。内科・外科・整形外科・歯科口腔外科・リハビリテーション科を常設しています。

眼科・小児科・婦人科外来を週数回開き、出産できます。町内人口は約2千8百人で周辺4ヶ町村からの患者さんも多くあります。当町は高齢化率約40%で病院利用の患者さんは高齢者が多く見られます。大概の疾患患者は受け入れて、必要に応じて後方病院(島根県内と広島県内)へ紹介・転院しています。病院経営の採算はなかなか困難です。外来患者・入院患者数ともに微増ですが、長期入院の傾向が出ています。どこへ退院しようか調整に手間取る場合も間々あります。

2年後に待ち構える町村合併は隣の赤来町との2町合併です。人口7千人、面積240 Km²(概数)の行政単位が出来る予定です。その時病院は機能を統廃合・機能の見直し・経

営の効率化が求められます。向かう先ははっきりしています。「地域の病院」です。地域に生きる(私を含めた)人々に健康な生活を提供できるよう奉仕することです。これに向かって方法・効率・制度を集約して行くことに尽きると思えます。【頓原病院 萬代】



故郷の医の灯消せぬ

石見町出身医師Uターン開業

石見町矢上地区で唯一の診療所が幕を閉じる危機を、町出身の医師が救った。「育ててもらった故郷のために」とUターンし16日、診療所を開院した。地域医療を担う医師の確保に、関係者は胸をなで下ろしている。

医師は、同町中野出身の天川和彦さん(四九)。矢上高校から愛媛大医学部を経て、一九九八年からは愛媛県の国立病院四国がんセンター麻酔科医長を務めていた。

矢上地区では、四十四年間にわたり診療に当たった大隅順生堂医院の大隅誠元さん(八三)が、三月末で現役を引退。開業医不在という事態に、日高昭登町長が三顧の礼で天川さんに要請した。

「自分が子どもの頃に石見町を支えた人たちが病院に行く姿を見て、何とかしなければと思った」と天川さん。方向転換に逡巡(しゅんじゅん)もしたが、故郷に対する使命感が上回った。

大隅さんの厚意で旧診療所を活用。町も改修費や機械導入費を助成し、内科と麻酔科の「天川クリニック」に生まれ変わった。日高町長は「安心感が生まれた。町民の健康管理に尽力してほしい」と期待を寄せる。

「都市でも地方でも医師の仕事に大きな差はない。住民に良かったと思ってもらえる仕事をしたい」と天川さん。スイス出身の女性精神科医エリザベス・キューブラー・ロスの次の言葉を心のよりどころにするという。

「地方の医師に必要なのは、わずかな医学的知識と親切な心である」
【山陰中央新報03.04.17より抜粋】

◇隠岐の島によるこそ

～お二人の医師を迎えて～

新しい年度が始まり希望に胸ふくらむ4月、隠岐の島後の2つの診療所に新しく医師が着任され、先日お二人の先生にお話を伺いに診療所を訪問した。

私も4月に新任地の隠岐支庁健康福祉局へ着任したばかりであり、先生方が隠岐にいらっしゃった経緯や抱負を是非お聞きしたかったという次第である。

お二人には着任のあいさつの時と

島後医師会の学術研修会の時の2回お目にかかっていたが、直接お話を伺うのは初めてであった。

まず一人目は、西郷町国民健康保険中村診療所の三島先生。長い髪を後ろにまとめられた風格のある先生。三島先生は大阪の公立病院退職後、老人保健施設勤務の経験を経ての着任である。病院では、外科医としてまた管理職として活躍しておられたが、「第2の人生、自分なりの医療を表現したい」との思いから、退職前に全国自治体病院協議会が主催する「へき地医療研修会」に参加、



隠岐（島前）を訪れておられたというから奇遇である。そして3年後、大阪府医師会ニュースで島根県が医師を募集しているとの情報を得、トントン拍子で中村診療所に決まったとのこと。双方からのラブコールが実ったというわけである。幅広い知識と温厚な人柄で、すっかり地域にとけ込んでいらっしやった。聞けば御尊父の御出身が五箇村とのこと、島根県にゆかりの人であった。

二人目は、五箇村国民健康保険診療所の館先生。館先生は卒後7年目、新進気鋭の青年医師である。学生時代から地域医療に惹かれ、大学卒業後、研修病院で研修を積んだのち大学病院で心療内科を研修。離島で医療をしたいという希望から全国を探して、広域連合や隠岐病院長との出会いの後、五箇診療所に赴任された。

「地域医療・プライマリケアという専門性がある。平成16年からローテーション研修が始まるなど、時代の要請でもある。地域医療をめざしているドクターは多い」「赤ひげバンク・赤ひげドクターという名称は再考の余地があるのではないか。赤ひげ精神はどこにいても持つべきであり、もっと近代的な、積極的な意味を込めた方がよいのでは？」とう先生の言葉に、私もこころから賛同するところである。

新しい医師臨床研修制度が始まれば、館先生のように一つの専門領域として地域医療に飛び込んで来る若いドクターが増えるのではないかと、そんな期待が広がった。

二人とも、求めておられる医療とそれを実現する地域からの要請が

県のドクターバンクから

●求職・求人情報（15年4月30日現在）

<求人> 21件

邑智郡一病院／泌尿器科、放射線科
邑智郡一病院／整形外科、精神科
鹿足郡一病院／内科
浜田市一病院／内科
飯石郡一病院／内科
出雲市一診療所／胃腸科、肛門科
邑智郡一病院／内科、整形外科
在宅医療
益田市一病院／精神科
隠岐郡一その他／不問
鹿足郡一病院／内科、外科
仁多郡一診療所／内科
出雲市一診療所／在宅医療
那賀郡一診療所／内科
鹿足郡一病院／放射線科、内科
麻酔科
益田市一病院／内科、循環器内科
神経内科、呼吸器内科
松江市一病院／内科、麻酔科
浜田市一病院／内科、放射線科
江津市一病院／精神科
仁多郡一病院／整形外科、眼科、内科
松江市一その他／不問
簸川郡（診療所）／外科

<求職> 1件

希望の担当科／老健施設・健診
麻酔科・一般内科・透析

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。（担当：戸谷・吉岡）

[電話] 0852-21-8813（専用電話）

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>

うまくかみ合い、この度の着任となった。今回のインタビューをとおして、熱い思いで地域医療を志していらっしやる先生方にもっともっと島根を知ってもらいたい、と思った次第である。【隠岐支庁健康福祉局 岸本】

◇風に吹かれて～出雲より～③

この度4月1日に「へき地等医療支援機構」の専任担当医師に就任いたしました。微力ながら精一杯がんばりますので、よろしく願いいたします。

さて今回は島根県における「へき地等医療支援機構」の具体的な業務内容について簡単に説明します。へき地における医療従事者確保とへき地医療支援が2本柱ですが、前者は①自治医科大学でのへき地勤務医師の養成、②県立中央病院でのへき地勤務医師のプール制の活用、③医療人材センターでの人材の確保、④へき地医療奨学金貸与制度の貸与者の

拡大、⑤医学生の地域医療等研修の実施などです。また後者は①へき地等医療支援会議の開催、②へき地勤務医師確保部会の実施、③島根県へき地医療支援計画の作成、④医療従事者に対する研修計画・プログラムの作成支援、⑤へき地医療拠点病院への支援、⑥ブロック制の推進支援、⑦代診医派遣の実施支援などです。

先日は鹿児島県の離島に出張してきました。鹿児島空港から航空機で1時間のところですが、天候不良のため航空機が欠航し、鹿児島港からフェリーで渡りました。12時間以上船に揺られ、翌朝到着しました。隠岐に5年半勤務した私もこれだけ長い時間の船旅は初めてで、感無量でした。こういったいわゆる遠隔離島で医療を行う医師にとっては、様々な支援がないと長く勤まらないだろうとつくづく感じました。

【医療対策課兼中央病院 木村】

None Blue Rose



危機管理で大切なのは、実態がわかった段階で「これは大変なことになるかもしれない」という想像力をもって行動すること、そして事態を掌握できなくても経過途中でいい、最高責任者が正直に情報を公開し、謝罪すべきはすることだ◆新型肺炎騒動が始まってから二ヶ月。迅速な対応に努めた香港で事態が収束に向かっているのに対し、感染を隠し隠便にことが終わるのを待った中国本土では、さらにまん延する心配すらある(5月9日現在)。中国政府の責任は大きい◆緊急へき地等医療従事者確保対策には危機管理の発想がある。島根の過疎地で予想(予定?)される絶対的医師不足。医療を受けられなくなる人を決して出してはならない。この対策を世に出し二年。わが島根を憂い、より実のあるものとするよう決意を新たにしている [F]

島根県庁医療対策課の連絡先

E-mail : iryuu@pref.shimane.jp

TEL : 0852-22-5251

住所 : 690-8501 松江市殿町 1

ホームページ[島根の医療]

<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>